

「中部地方」 やっちゃんトヨタ ～グローバルカンパニートヨタが中部地方にもたらしたこと～

本単元で育成する資質・能力

(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性
(教科) 情報活用能力, コミュニケーション能力

- 日時 平成29年11月17日 11:50～12:40
- 学年 第2学年3組 (男子17名 女子21名 合計38名)
- 場所 2年3組
- 単元について

○ 本単元は、中学校指導要領 地理的分野 (ウ) 日本の諸地域「日本の諸地域について、以下の (ア) から (キ) で示された考察の仕方を基にして、地域的特色を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの地域区分についての地域的特色を理解させる。(ア) 自然環境を中核とした考察 (イ) 歴史的背景を中核とした考察 (ウ) 産業を中核とした考察 (エ) 環境問題や環境保全を中核とした考察 (オ) 人口や都市・村落を中核とした考察 (カ) 生活・文化を中核とした考察 (キ) 他地域との結びつきを中核とした考察を受けて設定されている。

中部地方の地域的特色を学ぶ上では、日本を代表する企業の一つであるトヨタ自動車を、教材として取り入れることが有効であると考えます。トヨタ自動車の成長と中部地方の諸事象とを関連付けて学習させることで、地域的特色を追求し考察する場を設けることができる。この考察を生かして、現代の中部地方の地域的特色を学びとらせることができる。

		あてはまる						あてはまらない					
		よく		やや		計		計		あまり		まったく	
		6月	11月	6月	11月	6月	11月	6月	11月	6月	11月	6月	11月
課題設定	授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないかと予想しています。	21.4	19.8	52.4	60.4	73.8	80.2	23.3	19.8	2.9	16.2	26.2	3.6
情報の収集	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	5.8	21.3	21.4	50.9	27.2	72.2	52.4	27.8	20.4	22.2	72.8	5.6
	授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるかを考えています。	10.7	13.2	33.0	49.1	43.7	62.3	45.6	37.7	10.7	33.0	56.3	4.7
その他	授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	34.0	37.2	45.6	47.1	79.6	84.3	18.4	15.7	1.9	11.4	20.4	4.3

○ 本学級の生徒は、男子17名、女子21名の学級である。授業の中でのペア活動や班での活動は意欲的に参加することができる。以下の表は、6月と11月に実施した基礎・基本の生活と学習に関する調査の結果である。

9月の研究授業以降、得意な班活動を通じて資料を読み取り、班員と考察し、それをまとめて表現する、という「情報の収集」場面のある授業において大きな改善がみられた。

この結果から、生徒にとっては「解決しようとする課題について予想することや、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりすること」は、より得意な活動となり、「課題を解決するために、進んで資料を集め情報を収集すること」についても、経験を積むことで苦手意識がなくなり改善されていると考えられる。

○ 指導にあたっては、日本を代表する企業の一つであるトヨタ自動車を教材として取り入れることで、生徒の興味・関心を高くさせ、意欲的に探究学習を行わせたい。まず、トヨタ自動車の歴史について理解するため、複数の資料を読み取り、情報を集め考察する場面を設ける。このことにより情報収集能力の育成を図る。次に、「トヨタ自動車が中部地方に与えた影響について探し出そう」という

学習課題を設定し、再び資料から情報を収集し更にそれを活用して考察する場面を設ける。このことにより情報収集能力及び情報活用能力の育成も図る。最終的には、自分達が導き出した「トヨタ自動車が中部地方に与えた影響について探し出そう」という課題に対して、根拠を明確にしながらか述べることで、本校が目指している表現力・コミュニケーション能力の育成を図る。

これらの学習全体が、生徒にとっては「主体的な学び」であり、指導者としても授業のねらいが確実に達成できると考える。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科、領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、「解決したい」或いは「達成したい」学習課題を設定し、学習班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3
		授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）		
知識・スキル	表現力・コミュニケーション能力	（話す） 自分の考えや意見を、自分のことばで、表現することができる。	わかりやすく（伝える） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、自分のことばで、表現することができる。	（説得する） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で、表現することができる。
		（聞く） 相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、聞いている。	（聴く） 話の組み立て構造を考えながら、相手の意図や要点を整理しながら、聴くことができる。	（訊く） 相手の考えについて根拠の信頼性を判断しながら、訊くことができる。話された内容と自分の意見をふまえて疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。
		聞いて質問することができる。 （やりとり1回）	さらに深めた質問ができる。 （やりとり2回）	質問の後に自分の意見を述べ、内容を深めることができる。 （やりとり3回以上）
意欲・態度	主体性	課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで、取り組もうとしている。	自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで、取り組もうとしている。

6 目標

○ 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。

7 単元の評価規準

社会事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技法	社会的事象についての知識・理解
・中京工業地帯や東海工業地域の特色に関心をもち、意欲的に追求しようとしている。	・歴史的背景や大手企業の立地に着目しながら東海で輸送機械工業がさかんな理由を多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。	・さまざまな資料から中京工業地帯や東海工業地域の特色を適切に読み取っている。	・中京工業地帯や東海工業地域の特色を理解し、その知識を身につけている。

8 指導計画（全6時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	工夫	技能	知理	評価規準	資質・能力（評価方法）
プロローグ 中部地方が発展したのはなぜか，秘密を探ろう。								
課題の設定	1	中部地方の自然環境（1時間）	○			◎	・中部地方の地形や気候の特色に関心をもち、意欲的に追求しようとしている。 ・中部地方の地形や気候の特色を理解し、その知識を身につけている。	【主体性】（ワークシート）
情報収集	2	やっちゃんえ トヨタ（1時間）		◎	○		・歴史的背景や大手企業の立地に着目しながら東海で輸送機械工業が盛んな理由を多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。	【コミュニケーション能力】（グループ活動・発表） 【情報収集能力】（ワークシート）
	3	やっちゃんえ トヨタ 【本時2/2】		◎	○		・トヨタ自動車中部地方に与える特色を、さまざまな資料の関連づけから読み取っている。 ・トヨタ自動車と中部地方の関係性に関心をもち、意欲的に発表することができる。	【コミュニケーション能力】【情報活用能力】（グループ活動・発表）
整理・分析	4	交通網が発達した東海の農業（1時間）				◎	・さまざまな資料から中央高地の産業の変化を適切に読み取っている。	【表現力】（行動観察）
まとめ・創造・表現	5	内陸にある中央高地の産業の移り変わり（1時間）				◎	・日本有数の豪雪地帯であるという特色に着目しながら、北陸で稲作や地場産業がさかんな実態を適切に読み取っている。	【表現力】（行動観察）
実行・振り返り	6	雪とのかかわりが深い北陸の産業（1時間）				◎	・北陸の産業の特色に関心をもち、意欲的に追求している。	【表現力】（行動観察）
エピローグ 中部地方は、東海に代表される自動車工業の輸送機械を中心に発展した。また、中央高地・北陸でも、地場産業を中心に産業の土台となって発展している。								

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- トヨタ自動車中部地方に与えた影響について、資料を活用し、探し出すことができる。
- 具体的には、財政面、工業面、商業面、環境面について、資料を示し、仮説として説明することができる。

(2) 本時の評価規準

- トヨタ自動車中部地方に与える特色を、さまざまな資料の関連づけから読み取っている。(技能)
- トヨタ自動車と中部地方の関係性に関心を持ち、意欲的に発表することができる。(思考・判断・表現力)

(3) 準備物

- 教科書・地図帳・ノート・PC・TV

(4) 学習の流れ (3時間目/全6時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 [観点] ★資質・能力(評価方法)
1 既習事項の確認。[5分]		
1 トヨタ自動車のDVDを視聴し前時の振り返りを行う。	◇既習事項を確認させる。 ◇トヨタ自動車の規模についても確認する。	
2 本時の課題を設定する。[5分]		
学習課題:「探究!!トヨタ自動車中部地方に与えた影響について探し出せ」		
3 ねらいを確認する。[5分]		
ねらい:トヨタ自動車中部地方に与える影響について、資料を基に、仮説を立てて説明することができる。		
4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[15分]		
4 トヨタ自動車中部地方に与える影響について資料から読み取り仮説を立てる。 (グループ活動)	◇トヨタ自動車日本に与える影響について、資料を読ませ、討論させる。 ◇ワークシートに記入させる。 ◇財政面・工業面・商業面・環境面という言葉で視点を与え、発想を促す。	【情報活用能力】 (資料の読み取り)
5 課題解決について発表をする。[10分]		
5 仮説をまとめて、ミドルホワイトボードで発表する (グループ活動)	仮説のまとめ例 ・愛知県は、車両数が全国で一番多いため、ガソリンスタンドが多く存在する。 ・トヨタ自動車の売上額は全国で一番高いため、年収ランキングも全国3位である。 ・企業の税収が全国で一番高いため、スポーツ施設数も全国で3位である。	
		【コミュニケーション能力】(発表)

6 学習のまとめをする。[5分]		
6 発表内容をまとめ、どのような意味があるのか問う。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> 生徒のまとめ ・トヨタ自動車のように巨大企業が、中部地方の工業を支え、人々の暮らしを豊かにしている。 ・巨大企業が地域の雇用を支え、中部地方の人々の暮らしに役立っている。 </div>	
7 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]		
7 ワークシートにまとめと本時の振り返りを記入する。	◇本時の学習課題にそった振り返りを行うように促す。 ◇書き出しを提示し、文章での記述を手助けする。	

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	トヨタ自動車中部地方に与えた影響について、財政面では給与所得や法人税、工業面では車両台数や道路舗装率、商業面ではスーパーの売上、環境面ではスポーツ施設数や保育園数について着目し、それぞれ資料を示し、説明することができている。
B（合格）	トヨタ自動車中部地方に与えた影響について、財政面、工業面、商業面、環境面などの視点から、それぞれ資料を示し、説明することができている。
C（乗り越えさせたい実態）	トヨタ自動車中部地方に与えた影響について、それぞれ資料を示し、説明することができている。

(5) 板書計画

単元：中部地方

ねらい：トヨタ自動車中部地方に与える影響について、資料を基に、仮説を立てて説明することができる。

学習課題
「探究！！トヨタ自動車中部地方に与えた影響について探し出せ」

トヨタ自動車とは

・前時の確認事項